



青少年育成事業 支援パッケージ

青少年事業にご活用ください



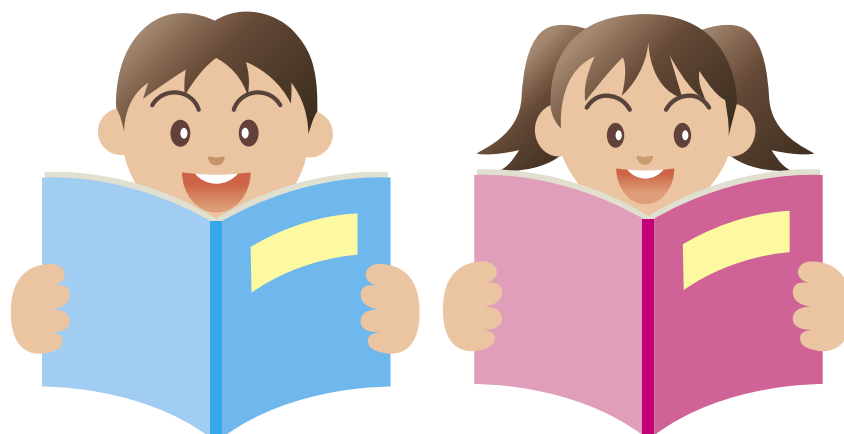
公益社団法人日本青年会議所
LOM支援グループ 資質向上委員会

目次

1. 子供たちを取り巻く教育環境1~2
2. 日本青年会議所として3
3. 日本JCの推奨プログラム4
4. プログラム詳細5~11

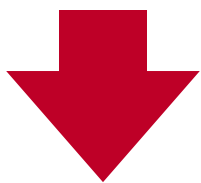
詳細

- みらいの選挙教育プログラム「みらいく」.....5
 - 世界の中の日本を強く意識できるプログラム.....6
 - 国連ミレニアム開発目標(UN MDGs)認知向上プログラム.....7
 - 真の国際人育成プログラム.....8
 - 家訓づくりプログラム9
 - 青少年版領土・領海意識醸成プログラム10
 - 日本の情緒と道徳心を育む「徳育」ゼミナール11
5. 土曜授業について学ぼう12
 6. 土曜日の教育活動について13~14
 7. 土曜授業を開催するまでの流れ15
 8. お問い合わせ先16



子供たちを取り巻く教育環境

2000年代前半から、日本の教育システムに問題提起をし始め、詰め込み教育などと揶揄し、土曜日の授業をなくすことで、子供たちが土曜日を有意義に過ごせるような社会システムが構築されてきました。しかしながら、学習指導要綱の改訂に従い、授業時間が増加し、平日の授業が過密となり、子供たちの負担が増大するようになりました。また、グローバル化が進む中で、海外の子供たちの教育レベルと比較すると、土曜日に授業を行っていた1990年代の日本の教育レベルと比較すると、学力低下が顕著にみられるようになってきました。そして、地域の教育機関においても、近年、土曜日に様々な行事を取り入れています。子供たちに様々な経験をさせるには、機会の提供が不十分になっています。



今こそJICが立ち上がり
これまで以上に豊かな
教育を学ぶ機会を
子供たちに作るべき

青年会議所だからこそ出来る 青少年育成事業を!

既存のLOMの青少年育成事業と
日本JC推奨プログラムを掛け合わせた
独自の青少年育成事業を
進めていきましょう!



JCメンバーによる
率先実行!!

我々青年会議所が率先して、
地域の子供たちの成長を促進し、

明るい豊かな 輝ける未来へ!

日本青年会議所として

日本青年会議所の、青少年育成支援として日本JC推奨プログラムを活用した授業の開催支援をしていきます。また、授業開催までの課題に対し共に解決に努めます。

授業の中身には

授業内容について大まかに分けると、

- ①日本JCの推奨プログラムの実施
- ②各LOMでこれまで行われてきた青少年事業の活用
- ③新規に行う授業

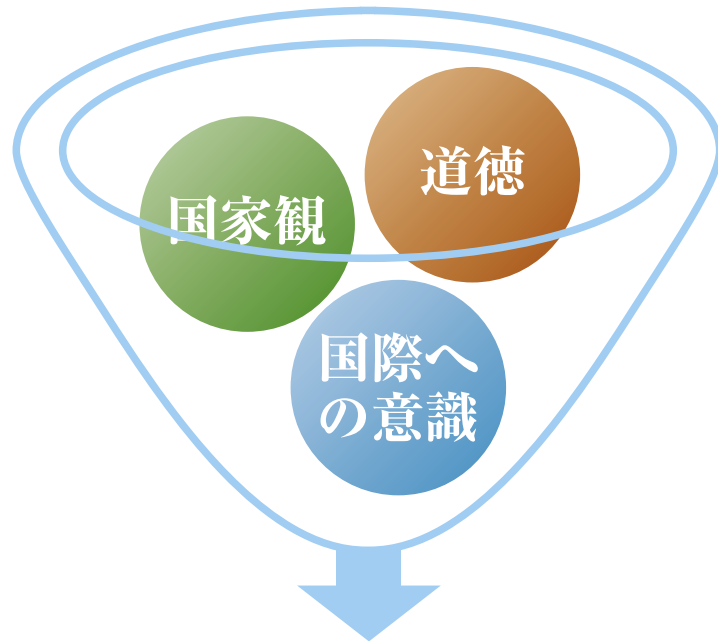
の3パターンに分かれます。

- ①のプログラムについては次ページ以降をご参照ください。
- ②の青少年事業は、それぞれのLOMにてこれまで行われてきたものをそのままご活用ください。
- ③は今回の土曜授業に合わせて新しく始める事業です。

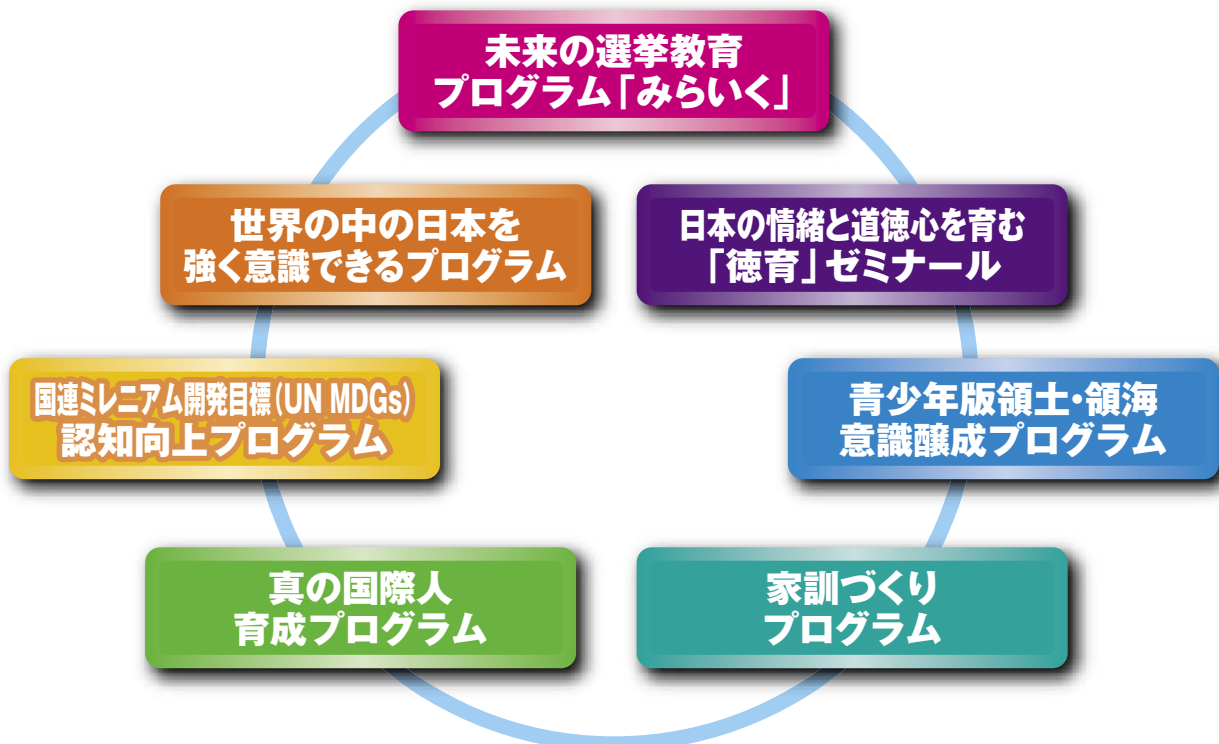


日本JCの推奨プログラム

日本青年会議所が持つ様々なプログラム等を活用し、青少年の道德教育を育み、子供たちが国や地域、未来への夢を抱かせ、自ら学び考える力や豊かな人間性、たくましく生きるための意識を醸成させる授業を開催しましょう。



7つのプログラムで支援します



未来の選挙教育プログラム「みらいく」

“未来”の有権者である子供たちに対して、将来を担う主権者としての役割や責任をしっかりと理解していただき、きちんとして行使できる有権者へと“育成”していく取り組みです。この「みらいく」の取り組みを推進していくことにより、政策本位による政治選択ができる有権者を一人でも多く生み出すことにつながります。

また、「みらいく」を受講した子供が、家庭で選挙の話題を話すことによって、親に対しても選挙に対して考える機会を提供することができます。

小中学生に民主主義の価値を伝え、選挙において投票を行うことの意義や重要性を理解してもらい、将来、成人になり選挙権を有した時に、積極的な政治参画を行なうことを促す教育プログラムです。

目的 選挙において投票を行なうことの意義や重要性を理解する

効果 選挙の意義・重要性を理解することで、積極的な政治参画へとつながる

実施時間 45分 **実施人数** 適宜対応

実施対象 小学生高学年・中学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
導入	講師自己紹介	3分
判断フロー学習	民主主義の仕組みと選挙において判断する際の流れについて学習します	12分
模擬投票準備 (課題設定・調査)	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な課題、地域特有の課題を例示します ○各班に分かれ、模擬投票のための情報収集を行います ○選挙公報を模したワークシートを使ったグループディスカッションを行います 	15分
模擬投票・主張発表	自分の意見に近く、またみんなのためになる主張に投票を行います	10分
まとめ・アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ○選挙は自分たちが生きる「未来」を決める大切なものということを伝え、家族と「選挙」について考えることを促します ○アンケートを通じて習得度を確認します 	5分

計：45分

世界の中の日本を強く意識できるプログラム

日本がこれからの国際社会で諸外国との信頼関係を築くためには、国民一人ひとりが世界の中の日本を意識し、他国の文化や精神性を受け入れられる民間外交を積極的に行なっていくことが大切です。

日本の素晴らしさや世界での役割、世界の実情を学ぶことで、日本固有の文化や特殊性に気づき、世界の中の日本がどのような位置づけにあるのかを知ってもらうと共に、国際への意識を高めてもらいます。各地会員会議所で今後の国際交流・国際協力といった国際貢献活動による地域の活性化につなげていただけます。

- 目的** 世界の中の日本を意識し、日本人のころをもつて国際交流することへの意識をもつ
- 効果** 相手を慮る心をもった民間外交の担い手を育成し、国際社会から頼られる国となる
- 実施時間** 45～80分 **実施人数** 40名程度
- 実施対象** 小学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
オープニング(趣旨説明)	導入の挨拶と趣旨説明を担当者から行います	1分
アイスブレイク	参加者の緊張を解きほぐし、プログラムへの積極的な参加を促すと同時に、世界と日本とのつながりを感じていただきます	2分
Phase 1	Phase 1【気づき】 世界の中の日本に対する気づき 世界のなんでもクイズ 日本に魅せられた外国人	10分
Phase2	Phase 2【学び】 日本と世界の事を学ぶ 外国の生活を体験してみる 日本の心を世界に広めた先人たち	10分
Phase3	日本と世界のために考えるディスカッションをします	20分
クロージング(アンケート)	全体を通しての総括的なあいさつとアンケート記入のお願いをします	2分

計：45分

国連ミレニアム開発目標 (UN MDGs) 認知向上プログラム

国連ミレニアム開発目標(UN MDGs)は国際社会における貧困、男女差別、健康面、教育環境の問題解決のために、2015年までに達成すべき国連加盟国と国際機関の共通目標であり、私たち日本人も当事者意識をもって目標達成に向け貢献する責任があります。しかし、国内においての認知度は3.7%であり、貢献度も先進国の中で27ヶ国中26番目と低いのが現状です。

UN MDGs認知向上プログラムは国際社会の抱える問題を理解し認知度の向上につなげ国際協力に関する国民意識を喚起する事を目的としたプログラムです。

目的 国際社会の抱える問題を理解し認知度向上につなげ、国際協力に関する意識を高める

効果 国際貢献へ参画する人材へと成長し、国際社会からの信頼を得ることとなる

実施時間 45分 **実施人数** 30名程度

実施対象 小学校3～6年生・中学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
趣旨説明	授業の内容と、授業を受ける児童に将来どんな大人になってほしいかを伝えます	2分
モジュールⅠ	世界の現状を伝え気付いてもらいます	6分
モジュールⅡ	映像を上映 日本との生活の違いについて4つのテーマについて考えます テーマ1 貧困について テーマ2 学校について テーマ3 男女平等について テーマ4 健康面について MDGsの8つの問題を説明します	20分
モジュールⅢ	日本人の持つ「OMOIYARIの心」が世界の課題を解決することを伝える 将来に向けて問題意識を持ち続けることがMDGsのテーマであり、将来の世界の平和のために何が出来てくるかを話し合います 世界の現状を知り、問題意識を持ち続けることと、行動することの重要性を説明します 授業の感想を記入します	17分

計：45分

真の国際人育成プログラム

近年の国際化の波の中で、多くの日本人は外ばかりを見るあまり、この内包する素晴らしい日本の価値に目を向けていないのではないのでしょうか。日本のアイデンティティを見つめ直し、相互理解の意義を理解し実践する「真の国際人」の育成は、政治や経済に頼るのみではなく様々な民間外交において、我々日本人が活躍し、そして未来のさらなる相互発展に向かうために必要不可欠な要素であると考えます。日本人としてのアイデンティティ確立の重要性を認識し、相互理解の意義を正しく理解すること及び実践することのできる「真の国際人」の育成を目的とします。

目的 日本のアイデンティティを見つめ直し、相互理解の意義を知ること

効果 民間外交を担う「真の国際人」へ成長していきます

実施時間 45分 **実施人数** 15名以上

実施対象 中学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
趣旨説明	セミナーの必要性と目的を明確に伝えます	7分
モジュールⅠ	日本の作法の由来、偉人、新日国の理由などの先人における観点から日本の誇りを育成します	10分
モジュールⅡ	現代日本に内包する素晴らしい価値を見つめ直し、日本の誇りを育成します	10分
モジュールⅢ	自国と他国のそれぞれの良さを学び、これからの国際社会で必要な要素に気付いていただきます	10分
モジュールⅣ	プログラムを振り返り、何故このプログラムが必要なのかをしっかりと伝え、今後の生活の中で本プログラムの学びをどのように活かすことができるかを考えます	5分
エンディング映像	これからの日本人に大切な要素をうたってきた外国人の言葉をナレーションします	2分
閉会		1分

計：45分

家訓づくりプログラム

日本には古くから、子孫に残す教訓や戒めなどを「家訓」として残してきた歴史があります。現代でも旧家や、老舗企業の社訓として、その形跡をみることができます。家訓がある家庭には、先祖から続く価値観が継承されていることで、家族のなかの軸がしっかり保たれ、結果、子供たちを多くの災いから、未然に防ぐ効果や、子育ての中でも、躰や、道徳心を身につけるたくさんの効果があるといわれています。この効果に着目し、家訓づくりをサポートするプログラムです。

目的 「徳溢れる心」を醸成する

効果 責任感溢れる青少年育成につなげる

実施時間 80分 **実施人数** 1名～100名

実施対象 小学生・中学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
モジュールⅠ	導入フェーズとして、徳溢れる心の必要性を喚起します	5分
モジュールⅡ	探究フェーズとして、「親からのメッセージ」10個を書き出すワークショップを通じ、自分の価値観を見つめなおします	30分
モジュールⅢ	発信フェーズとして、「家訓づくり」を実施し発信します	40分
モジュールⅣ	家訓が唱和され、徳溢れる心が醸成されます	5分

計：80分

青少年版領土・領海意識醸成プログラム

領土領海領空に関して近隣諸国との間に抱える問題を知り、将来の国家を立場として正しい知識と強い意志をもつことを目的としたプログラムです。

日本の端はどこ？日本はいくつの島で出来ているの？日本の海の大きさは世界何位？日本の海を守っているのはどんな人？などといった日本の領土をクイズ形式で学び、領土領海を守ることの大切さ、この国にとって領土がいかに大切なのかを学んでいただく内容となります。

子供たちに、日本が世界有数の海洋国家で水産資源や海底資源が多くあること、またその領土を築き守ってきた先人がいることを知ってもらい、領土領海について深い意識をもっていただくプログラムです。

目的 近隣諸国間との間に抱える問題を知り、領土領海に関する知識を持つこと

効果 領土領海への意識を高め、国益を見据えて主張出来る青少年の育成につなげる

実施時間 30~45分 **実施人数** 問わず

実施対象 小学生・中学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
モジュールⅠ	開催あいさつと趣旨説明をします	3分
モジュールⅡ	プログラムの概要説明をします	2分
モジュールⅢ	プログラムパワーポイント・映像 日本の領域はどこまでなのか？なぜ多くのお金をかけて領土を守るのか？を学びます	15分
モジュールⅢ	内容の復習 北方四島や尖閣諸島の位置、日本の排他的経済水域の広さ、そして誰が日本の領域を守っているのかを復習します	15分
モジュールⅣ	受講者同士意見交換タイム 日本の海を守れないとどうなるのか？を意見交換します	5分
モジュールⅣ	アンケート記入・授業まとめ	5分

計：45分

日本の情緒と道徳心を育む「徳育」ゼミナール

多くの支えの中で生かされていることへの感謝と、つながりの中で自分が存在していることを認識し、日本の情緒「他者を慮る」心を通して利他の心、思いやりの心の必要性を理解し、日本人であることの必要性を理解し、日本人であることの誇りや日本人に生き方を感じてもらうプログラムです。

目的 「相手を慮る」という日本人特有の国民性を知り、日本人の国民性を兼ね備えること

効果 日本人の情緒である他者を慮る精神性を育み、人と人とのつながりが強固となり国民性の向上につながる

実施時間 45分 **実施人数** 30名以上

実施対象 小学生



Time Schedule

内容	詳細	時間
オープニング	趣旨説明:徳育ゼミナール概要説明	1分
導入(モジュールⅠ) ありがとう	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な「ありがとう」を思い返し、書き込んでもらうことにより、感謝の心と人と人のつながりについて気付いてもらいます ○家族や友だちとの体験を想起させ、多様なつながりを再確認することにつながります 	10分
展開(モジュールⅡ) わたしができること	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワークを通し、自分と家族・学校についての関わりについて考えさせ、人との関わりにおける自分の感じ方や考え方を学んでもらいます ○相手の立場になって考える視点＝相手を慮る心について感じてもらいます 	20分
まとめ(モジュールⅢ) みらいへのやくそく	<ul style="list-style-type: none"> ○徳育ゼミナールで気づいたこと、感じたことを振り返り、発表して「しなければならないこと」を認識していただき意識の持続化を図ります ○己を律し、他を利する心を醸成します 	10分
ふりかえりシート記入	徳育ゼミナールを通じて感じたことをアンケートとして振り返っていただきます	2分
クロージング	保護者向け冊子・ご家庭に帰ってから徳育を行うカレンダー等の説明と今後のご案内を行います あいさつにて終了します	2分

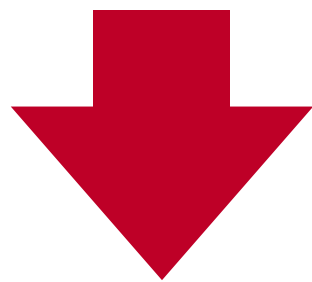
計：45分

土曜授業について学ぼう

土曜日において、子供たちに、学校における授業や地域における多様な学習や体験活動の機会などこれまで以上に豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、学校、家庭、地域のすべての大人が連携し、役割分担しながら取組を充実する必要がある！

ということとは？

**青年会議所が行なう
青少年育成事業の一環である！**



**土曜授業を通じ、
地域のたからである子供たちの
成長の機会を創出する！**

土曜日の教育活動について

子供たちの健やかな成長のためには、土曜日の教育環境を豊かなものにする必要がありますが、土曜日の教育活動については、その実施主体や扱う内容等により、幾つかの形態に整理できます。

①『土曜授業』について

②『土曜の課外授業』について

③+④『土曜学習』について

①『土曜授業』について

児童生徒の代休日を設けずに、土曜日を活用して教育課程内の学校教育活動を行う『土曜授業』

※文部科学省では、設置者の判断により、『土曜授業』を行うことが可能であることを明確化するため、2013年11月29日に学校教育法施行規則の改正を行いました。

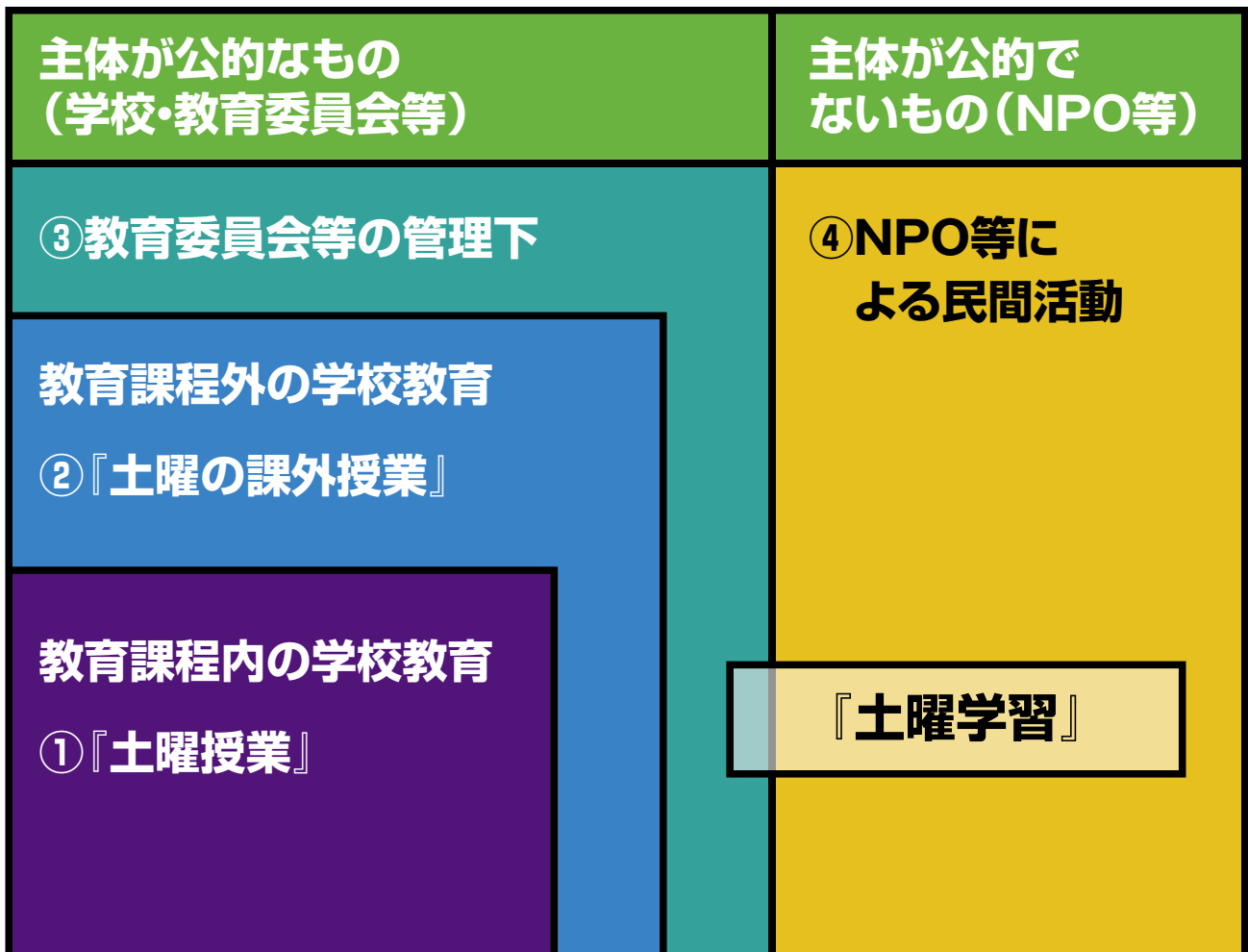
②『土曜の課外授業』について

学校が主体となった教育活動ではあるものの、希望者を対象として学習等の機会の提供を行うなど、教育課程外の学校教育を行う『土曜の課外授業』とも呼ぶべき形態があります。

③+④『土曜学習』について

教育委員会など学校以外の者が主体となって、希望者に対して学習等の機会の行う『土曜学習』とも呼ぶべき形態があります。

※『土曜学習』については主体が公的なものと主体が公的でないものがあります。



文部科学省としては、『土曜授業』や『土曜の課外授業』『土曜学習』の機会の充実等により、総合的な観点から子供たちの土曜日の教育環境の充実に取り組むことが重要であり、その振興に取り組んでいきたいと考えています。

土曜授業を開催するまでの流れ

① LOM内での意思確認

- どのような関わり方をしたいのか
(規模・程度・内容)
- 自LOMの青少年教育事業の状況確認

<学校支援地域本部とは>

学校支援地域本部は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、いわば地域につくられた学校の応援団といえます。

② 地元市町村教育委員会に確認

- 土曜教育の実施状況とスタンスの確認
- 学校支援地域本部はあるのか。
地域コーディネーターはいるのか。
- 土曜日学習応援団は設置されているか？

<地域コーディネーターとは>

地域コーディネーターは、学校支援地域本部にあって、学校教育活動への教育支援人材や教育プログラム等の導入に当たり、実質的なコーディネートを行う地域人材です。学校支援地域本部活動の中核的役割を担い、その成果を左右する重要な存在です。

※どの段階においても

- 文部科学省担当者を招いての勉強会
- 日本JC担当委員会との連絡・協議・説明会が実施できます。各所との打ち合わせに文部科学省担当者、日本JC担当委員会メンバーとの同行を望まれる場合は、ご連絡ください。

③ 学校支援地域本部・地域コーディネーターが ありの場合

学校支援地域本部・地域コーディネーターがなしの場合

土曜教育推進委員
に認定をもらう

④ 学校独自で実施
している場合

教育委員会に今後土曜教育を行う意思
がある場合

⑦ 教育委員会に土曜教育を
行う意思がない場合

土曜教育コーディネーターと
打ち合わせ

実施している学校
側に連絡

⑥ 教育委員会に今後土曜教育を
行う意思があり、かつ実施を
希望している学校がある場合

⑥ 教育委員会に今後土曜教育を
行う意思があるが、実施を希
望している学校がない場合

土曜授業実施規模等
を再確認

授業内容の取り決めと学校の紹介

学校側と打ち合わせ

教育委員会と実施
組織づくり

教育委員会と実施
組織づくり

実施学校の募集と打ち合わせ

学校側と打ち合わせ

実施希望校と打ち合わせ

実施学校の募集と打ち合わせ

土曜授業事業実施



**様々な壁にぶつかった時、
共に乗り越えて行きましょう！
どしどしお問い合わせください！**

本件に関するお問い合わせ

**公益社団法人日本青年会議所
LOM支援グループ 資質向上委員会**

担当：花田 将司

TEL：090-2224-7976

e-mail：masashi-hanada@inaho-kakou.co.jp